

令和 5 年度 第 1 回 河北町総合教育会議 会議録

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷 俊雄、河北町教育長 板坂 憲助

河北町教育委員 児玉 康子、木嶋 真一、槇 ふみえ、庄司 泰寛

欠席者（0 名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 秋場 弘昭、生涯学習課長補佐（兼）社会体育係長 高橋 則一

教育主幹（兼）指導主事 吉田 仁志、指導主事 秋葉 千絵

教育総務係長 古澤 悦子

3 日 程

令和 5 年 12 月 21 日（木）午後 3 時 00 分 開会 河北町役場 3 階 302 会議室

1 開会

2 町長あいさつ

3 協議

(1) 河北町立小学校のあり方について

(2) 河北町中学校における休日の部活動の地域移行について

4 その他

5 閉会

1 開会

古澤係長

定刻となりましたので、只今より、令和 5 年度 第 1 回河北町総合教育会議を開催いたしたいと思えます。はじめに町長あいさつを森谷町長よりお願いいたします。

2 町長あいさつ

森谷町長

年末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また今年10月より和田委員から庄司委員に変わられました。引き続きよろしくお願いいたします。今日の議題にもなってますけども、小学校のあり方は2年間、検討委員会で検討していただき、先日答申が出され、今後河北町のこれからのあり方を考える上で、非常に大事なテーマになってくると思っております。この問題については、少子化、生徒数の減少ということへの対応という面もあるわけですが、逆に言えば子供の教育環境を新たに整えて、河北町の子どもたちのために、本当にいい教育環境をつくっていく、これからの子供たちのための教育環境を、再編を通して実現していく、期待感を込めた前向きな視点に立った課題として、取り組んでいくべきことと思っております。今後、検討委員会の答申を受けて、設置者としての町の方針、構想づくりを進めていくことになります。河北町の新しい小学校1校をつくっていくという答申が主なポイントになっております。中学校との連携、さらには今、谷地高等学校の2学級維持、町内で、小学校、中学校、そして魅力ある高校がある、そういった教育環境を整えながら、子育て、教育する上で、河北町が魅力のある町として、少子化、人口減少にも歯止めがかかる一つの大きな施策等につなげていかなければならないと考えておりますので、ぜひ委員の皆様、これからの河北町の将来、人材育成、教育、人づくりにつながる、重要テーマとなりますので、よろしくお願いいたします。

今年、スポーツ、文化、両面で、コロナも徐々に収まり、様々な活動が戻ってきたと実感しております。カヌーはもちろん、バスケットや卓球も県内でトップの成績を収めている状況ですし、小学生の卓球も活躍している選手も出てきておりますので、河北中の部活動もさらに楽しみに思っております。ぜひ、その活躍から元気をもらえればと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

古澤係長

それでは、協議に入らせていただきたいと思います。座長につきましては、森谷町長にお願いいたします。

3 協議

森谷町長

それでは先般、検討委員会から答申がありました、協議(1)の河北町立小学校のあり方について、事務局からお願いします。

吉田教育主幹

それでは、私のほうから答申について説明をさせていただきます。それでは答申の1ページを御覧ください。本答申は12月14日に、302会議室で行いました。初めに、本町の小学校のあり方検討の必要性についてということで、大きく課題は二つあります。一つ目は児童数の減少と各学校の人数のアンバランスです。二つ目は学校施設の老朽化になります。

最初の人数の減少については、今現在河北町では、標準規模の学校は谷地中部小学校のみとなっており、複式学級があるところが谷地西部小学校、来年度以降、北谷地小、1年飛んで西里・溝延が複式学級の状況が生まれる可能性が出てきたというところになっております。そしてこれらのことを踏まえて、学校教育活動の課題、地域の保護者、地域の思い等を勘案しながらそれらの課題について検討していく必要があるということで、この検討委員会のが立ち上がったということになります。

2番目が、この新たなあり方検討委員会の経過ということになります。まずは平成29年に「小学校の将来を考える会」が組織されております。学校の不均衡等、様々課題について話し合われましたが、最終的には地域の理解なしに統合はないと。町民への周知を行って理解を深めていくことが示されました。

その後、児童数の減少が非常に著しくなったことを踏まえて、検討委員会が5月31日に立ち上がり、教育長から委員長に、「河北町立小学校の適正規模・適正配置について」、「河北町立小学校の今後の在り方や、将来の学校像等に対する本町の基本的な方針について」、この二つについて諮問が行われたことが示されております。検討委員会は第1回から第7回まで、途中地区懇談会を小学校区ごと

に行いました。そして第5回はどんがホールにおいて、町民参加型の検討委員会を行ったところです。第3回の委員会の後に、周知不足が否めないというような話もあり、ホームページ等でこれまでの記録、アンケートの周知を行ったところです。また、この間、町報でも、周知しております。

それでは2ページを御覧ください。検討結果になります。検討委員会では7回にわたる会議を踏まえ、1校に統合する案、段階的に統合する案、現状維持する案の三つについて、それぞれのメリット、デメリットを整理しました。その結果、1校に統合することが最適であるという検討結果になりました。以下、諮問のあった2点に沿って整理した内容を記載しております。

まず河北町立小学校の適正規模・適正配置についてですが、まず学校規模について、1学級あたりの人数と、学校の学級数について示されております。学級数についてはおおむね県の施策である、国施策の範囲の中での人数ということが示されております。学校の学級数については、やはり、児童の学びの環境の充実や、教職員の負担軽減のためにも、クラス替えが可能な全ての学年において複数学級となる学級、学校規模の確保が必要だということです。

そして(2)になりますが、児童の実態に合わせた指導体制ということで3点記載されております。まずは多様な人間関係の構築ができること、教職員側も子供たちを多層的な支援ができる体制が整えられること、安心安全な学校ということで、学校の危機管理を考えたときに役割分担をして、組織的な体制で対応ができる規模が必要となります。

そして(3)地域と学校とのつながりということですが、児童数の減少や継承の担い手の不足、そして河北町全域を一つとしてとらえて、児童も幅広く地区の行事に触れることができるようにすることが示されているところです。

次に(4)の教職員の資質向上になります。こちらのほうには2点あります。一つの学年で複数の教員がいれば、幅広い視点で教材研究ができること。近年若い教員が非常に多くなっております。1学年で若い先生1人に任せていくような学校の体制よりも、なるべく中堅や、そういった経験のある先生方とチームを組んで、その学年経営をしていくことがこれから必要であることが示されているところです。

続いて大きな2番です。河北町立小学校の今後の在り方や将来の学校像に対する本町の基本的な考え方になります。(1)として、小学校の施設設備について、10点書いてあります。どれも非常に重要なところですが、①のところです。校舎を新設し、中学校との一貫した教育活動が展開できるようにすること。あわせて県立谷地高等学校との連携し、特色ある河北町の教育を推進することというところで1番大きく示されているところです。こちらについては、今後丁寧に慎重に考えていかなくてはならない部分であると考えております。そのほか、ゆとりある環境、校内に適応指導教室等の教室を設けるなど、教育相談機能の充実を図る。また教育環境の整備、部活動の地域移行等も絡んできますので、体育文化施設、地域の方々も利用しやすいような施設にすること。地域コミュニティの拠点となるようなところ、防災機能、学校の給食について示されております。

(2) 特色ある教育の創出ということで、学習指導要領に基づく教育への対応ができるようにということで、こちらのほうには、4点示されております。

そして(3) 教育課題に対する対応ということです。ここも結構大事な部分が表示されており、4ページにかけまして6点示されております。特に不登校への配慮というところをしっかりとやってほしいこと、いじめ・不登校、問題行動への対応、個別に支援が必要な児童生徒への配慮、多様性、発達障がい、教職員の時間外勤務の削減することなどが示されているところです。

(4) 通学手段については通学距離が長くなるということも踏まえ、スクールバス、路線バスなどを活用する、など文科省が示す通学時間の範囲内になるように取り組み、おおむね60分以内と示されています。

(5)、町づくりの連動ということですが、既存校舎の利活用について、地域の方と十分に考えを聞きながら、町の各課と連携を図りながら、この活用について十分検討していくことが示されております。

(6) の放課後児童クラブについては、既存校舎の利活用も含めて、その体制づくりについてしっかりと取り組んでほしい、検討してほしいというところも示されております。

(7) については、小中一貫の形の一つとして義務教育学校があるわけですが、

検討委員会では、学校規模が大きくなるので、今回の答申で目指す学校像の実現に向けて課題が残るだろうということでした。

最後になります。今後に向けて、検討委員会では、急激な児童数の減少を迎える中、本答申が、今後策定される整備計画やあるいは9年度から始まる、第三次河北町教育振興計画に反映され、これからの河北町を担う子供について、最適な学びの環境を構築するために、できるだけ早い、統合の実施に向けた取組を期待する。また、児童同士のつながりが深まるような教育活動を子供たちとともに考え、各学校間の教育課程を調整し、交流学习等計画的に実施することや、統合に向けて、人的配慮等を行い、スムーズに統合ができるように配慮をお願いしたいということになります。統合前には、しっかりと生徒間の交流がしっかりとなされていることと、先生方の人事面でも、知ってる先生が誰もいなかったとか、そういったことがないように、各地区への配慮を踏まえた人事配置について、お願いをしたいというふうなところになります。

5ページ以降については、これまでの答申・諮問、検討委員のメンバー、これまでの、広く、またアンケート等について、こちらのほうに示しているところがあります。答申全体については以上です。

今後の進め方についてになります。別紙になります。14日の答申を受けて、課長会議、教育委員会議、本日の総合教育会議、そして明日の厚生文教常任委員会で、この答申についての説明を行っていきます。そして1月中にそれらの意見を踏まえながら、基本方針についての検討を進め、その検討段階の中で町民への説明会、また各所会議での説明について行いまして、3月にはパブリックコメントで大きく意見を問い、そして令和6年度以降、方針の決定というようなところで進めてまいりたいと思います。以上です。

森谷町長

ありがとうございました。まず答申はもう出されたわけですが、これを踏まえて、今後どう進めていくか、内容について御質問あればお願いしたいと思います。ちなみに、1月15日の町報に答申の概要をお知らせし、ホームページでも内容を周知していく予定ですので、お含みおきください。まず、この内容について、皆さんからありませんでしょうか。

児玉委員

新聞等で1校となったときに驚いたので、どうしてかなあと。資料を見たときに、アンケートの中では2校3校といった希望の方が多かったかなと。急を要するようなことがあって、1校とになったんだろと思うんですけども、検討する段階で、2ページの上のほうですね、1校に統合する案と、段階的に統合する、これは2・3校にしてってだんだんだんだんに移行にしていってという案かなと思うんですけども、このあたりの検討の具合はどうだったのかというのが1点。それから、1ページに戻って諮問した内容の確認ですけども、今後河北町らしい教育、例えばどのあたりに河北町らしさが盛り込まれるとか、その辺りをお聞きしたい。

秋場課長

1点目について、検討委員は27人おまして、最初はそれぞれアンケートと同じように意見が分かれました。現状維持という案もありましたし、2校あるいは3校案との意見もありました。1校にすべきだという案もあり、そこは意見が分かれていましたので、このままだと答申には、1校もあるし、数校も考えられるし現状維持もあるし、町で考えてね、というような答申しか出来ないということになりました。そこで、1校にした場合、段階的にした場合、それぞれメリット、デメリットがどうなのかということをもとめました。段階的に統合は、例えば何年か後に2校にして、いずれ1校になるであろうというところで、例えば、1年生のときに2校に統合、5年生か6年生のときに今度は1校に統合と2回統合を経験することは、子供の負担がやはり大きいだろうと。そのデメリットからすれば、いずれ1校になるんだったら1校にしたほうがいいんじゃないかというように、意見が変わってきたというところです。現状維持という意見の方は、子供の急激な減少ということで、各学校ごとに考えた場合、1クラスどころかその学年が誰もいないという学校も出てくると。そうした場合、もうそれでは学校ではないということから、現状の6校維持は出来ないだろうという流れから、委員で検討する中で、最終的に1校に、というふうになったところです。いろんな意見があって、最初から1校ということではなく、アンケートと同じような意見の中で議論していき、最終的には1校案が妥当だろう、となったところです。

森谷町長

答申はクラス替えができる複数学級がある規模がいいよね、という最終答申ですけれども、学校の適正規模という観点と、議論の過程で現状維持という意見もあったけれども、何校にするかという議論がある中で、河北町の規模からいうともう一気に1校のほうの方が妥当だろうと。やはり段階的に統合となると子どもたちの負担が大きいというところがポイントなのかな。

吉田教育主幹

まず、地区懇談会の中で町の方針がないとという意見もあり、3回目の検討委員会で町で目指す姿とはどんなところ、子供の目指す姿についてみんなで考えたところです。これを達成するためにどうするかとなったときに、第4回に1校案、段階的案、現状維持について話し合いました。そこで11ページの資料4を提示させていただきました。仮に、学校ごとに人数をあげたて検討したところ、Aのブロックだと、今後入ってくる1年生を考えたとき、もうクラス替えも出来ないところもある。それで果たしてこの子どもの多様性とか、人間関係づくりとか、社会性を育成するために適切な環境なのかというようなところもあり、統合してもすぐまた次の統合を考えないといけないというようなところも出てきて、三つのグループでそれぞれ協議したところ、やはり1校という考えが多かったということです。

森谷町長

要するに三つのグループに分かれて、それぞれで議論したんだけど、最終的に3グループともやはり1校が1番良いのではと整理されたということで。でも児玉さんからあった、これまでのアンケート結果などはお知らせしていた部分もあるし、教育委員の皆さんも、今回、1校という案が出て非常にびっくりしたという意見もあり、その辺は検討委員会の外にいる人から見れば、素直な反応であって、恐らくこれから説明していくときに、そこをどう説明し、こういう答申になったのか。それを踏まえて、教育委員会、町としてこの答申どおりいくのか。ただいずれにしても、具体的にどういう学校づくりを進めていくのかを前提として、今後の整備計画につなげていくんですけど、その前に基本構想的なものをしなきゃならないし、1番のポイントはどういう学校にしていくなかという前に、1

校にすることについて、町民の方々に答申の内容を理解していただき、説明し疑問に答えていく作業がこれから大事になってくるんだと思います。町民の方からは、いろんな御意見もあるかと思いますが。

児玉委員

周りに聞くと、そういう反応が大きかったです。やはりテレビや新聞等を見て、ちょっと会合があったときに1校なのか、すぐするのか。ただ、前に教育長に聞いたところ町民の方々の反応はほとんどなかったとおっしゃったので、一体なぜなんでだろうというのは、ほんとに疑問に思います。

森谷町長

これからいろんな声が出てくると思います。やはりまず1校にするというところ、これが非常に大事な話になる。あと、2点目について、お願いします。

秋場課長

2点目については、3ページの将来の学校像に対する基本的な考え方ということで、小学校の施設、整備の①は、校舎を新設し、というのがありますが、その下で、ゆとりある環境だとか、教育機能の充実、その中にはICT機器、地域コミュニティの拠点など、防災機能を持つとか、おいしい給食というような、抽象的なところもありますが、そういった河北町らしさというか、河北町として今の規模の中でできることを、実現に向けて検討してほしいというような内容になっているかと思います。

板坂教育長

3ページを御覧ください。いわゆる小学校の施設設備、いわゆるハード面です。ハード面では、10項目を意識した校舎にしてくださいと。ソフト面では、(2)特色ある教育の創出ということで、こういった力を育むとか、資質・能力を引き出す担任力の育成、ふるさと学習、伝統のよさを引き継ぐ学習を取り入れたもの、あとICTの利活用はやってるわけですが、英語教育も推進し、次の3点、幼小中高まで入ってます。その辺がやはり特色になるかなと。あと谷地高とも絡めて、小学校のうちからキャリア教育をやるということ、自然を生かした環境、こういったものが、ソフト面であります。それから今、教育課題があるわけですが、この6点を取り入れて、課題を解消できるような学校にしてほしいとい

うことです。検討課題の中で、通学距離が長くなるから、安全はどうするんだとかそういったことが出ましたので、そういった要望も取り入れて、特色ある将来の学校像が示されているということです。

森谷町長

諮問する前の段階で、児童に合わせた数合わせの再編討論じゃなくて、先ほども申し上げたんですが、これから河北町で学ぶことについて、親御さん、子どもたちが、河北町の小学校いいよね。小中と非常につながりのあるいい教育だよねと。河北中と谷地高の連携など、魅力ある高校作りとしているようなつながりの中で、河北町らしい何か伝統と歴史のような形での地域的な河北らしさもあると思います。町全体としての規模感とか、あるいは、非常にコンパクトだというようなことも含めて、教育環境をつくっていく上で河北町の優位性を生かした形でソフト、ハード両面から、ぜひ河北町の小学校で学ばせたい。中学校というふうにつないでいきたい。町内の保護者の方はもちろんですけども、町外からも魅力を感じてもらえるような、河北らしい教育につなげていければと。抽象的ですけどね。通学も比較的、1校にしたとてもコンパクトな町なので、環境ということからみると大きいところかなと。ちなみに60分とは、文科省が示す通学時間ってあるんですけど、60分は学校が始まる1時間前に出れば十分始業に間に合うという60分なのか、歩いてる時間、バスに乗ってる時間、自転車に乗ってる時間が60分という意味なのか。

板坂教育長

要する時間なので、手段は何であれ、60分。距離でいうと、小学校が4キロで中学校が6キロとなっています。

吉田教育主幹

最大60分なので、徒歩4キロを歩いてくれば大体60分ぐらい。

森谷町長

例えば河北町で言うと、小学生の足に合わせてってということになと実際4キロからはみ出る地区もありますか。

板坂教育長

一番遠いところで、岩枝から通う中学生で5.7キロです。荒小屋で、6キロ弱ぐ

らい。

森谷町長

歩いて4キロ、交通機関使っても60分以内と。通学は1校にしても十分可能だと。

木嶋委員

いろいろ説明をいただいて、早い段階にしないでいいかと。河北町はコンパクトな町なので、地区的にはすごく集約できて、ある程度理解を得られやすいような気がします。ずっと前から、いろいろと統合の話は出ていたわけですが、多分町民の皆さんの認識的には、ほとんどの皆さんが今のままではいけないと思ってると思うんです。丁寧に説明していただいて、1校にしたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。河北町の特徴というの考えたんですけど、逆に人数が少ないのを武器にしてきめ細やかな指導をするとか。先進国っていうのは意外と1学級の人数が少ないそうなんですよね。少なければそれだけ先生の目が行き届くと思います。逆に大規模じゃないことを生かしてきめ細かいサービスをするとか。いわゆる縦割りっていうか、小学校と中学校の合同の行事など、1か所に集約することをうまく利用して、河北町独自の教育というか、谷地高生がだんだん少なくなっていることもありますので、校種間の結びつきをもっと増やして、河北町全体で、小中高を結びつけるような流れができればいいんじゃないかなと思います。

森谷町長

理解を得ながらですけども、きちっと説明しつつ、学校規模は1校という中で考えるにしても、きめ細かい教育ができるような体制もつくっていくことが、大事なんじゃないかっていうことですね。

木嶋委員

やはり人口減少というマイナスのイメージがあると思うんですが、逆に強みでもある気がします。東根市などは、人数が増えて大規模校で増築して、目が届かなくて、不登校も増えているなど弊害もあると話を聞くので、そういう面では、河北町のきめの細かさ、人数の規模っていうのは、有利に働くところもあるのかなと思います。

森谷町長

都市部で子育てをしてる若い人の話を聞くと、田舎の学校っていいねということもあるようですね。

槇委員

以前学校訪問をしたときに、学校の中をウロウロしている児童がいたんです。校長先生に「どうしてそういう子がいるんでしょうね」って尋ねたら、先生の指導力不足も挙げられていましたが、小規模の学校だったら、ちゃんと教室で過ごすことが出来てるかもしれないと聞きました。やはり将来的に1校になるのは、もう必然的なことだとは思いますが、町独自にさんさんプランよりも、もうちょっと人数を減らして、教室になじめない子や、先生の指導が行き届かない子が出ないように、少ない人数で指導できる体制ができる1校にできたらいいと思います。今まで小規模校で過ごしてきた子ども達が、統合することで中1ギャップのようにならないかと心配。統合するにあたっては、河北町独自プランのようなものを出して行って、校舎の作りもほかのところにないようなところを取り入れてもらえたらと思います。

板坂教育長

最近発達障がいの子どもたちが増えてきています。そういった子どもたちのために町で学習生活指導補助員も配置し、専門にみてもらったりしています。確かにクラスの人数が少ないと目は届きます。ただ、社会性を育む、あるいは多様性に触れるということで、ある程度のコミュニティの広さが必要である。そう考えた時に、さんさんプランでは、18人目を下限に設けているグループを作成するために、33人から18人の幅ですよっていうふうに、国の基準はもっと上なんです。国の学級編制基準があるために、1クラスの人数にやはり差が出ている、そういう状況なんですね。そういった課題を、この4ページの①から⑥、ここでぜひともお願いしますよということで、今問題になってるのが⑤の発達障がいに対する理解を図ることと、インクルーシブ教育を推進する、これを絶対やってくださいということが記載されています。

森谷町長

さらっと書いてありますが、インクルーシブ教育とは？

板坂教育長

障がいの有無に関らず、すべての子どもが同じ場で学ぶことです。欧米ではこういった教育が非常に発達していますので、そういった教育を推進してくださいということです。少人数の学校から、急に統合で大きい学校になると戸惑うことが考えられるので、交流学习等を計画したりして徐々に慣れていくように考えているところです。新しい友達を作るのが楽しみだという子もいると思います。こういう話を何回か重ねて、町の教育委員会としての基本方針を決めていきたい。できるだけ町民から理解を得られるようにと思っています。

森谷町長

そういう意味ではいろいろ多角的な意見を整理してくださったかなと思います。ただ一般的な方からいうと賛成、反対といろんな意見があると思うので、町としてこういう風に考えているんだということをまとめていかなければと思います。

庄司委員

私の子供も幼稚園の時にこども園ができて、少人数から大人数のところに入った経緯があるんですが、それから中学校になって、また一緒のクラスになったと話していたのを聞いて、そういう楽しみもあるんだなと。1校にすることに対して私は抵抗がなく賛成なんです。ただ河北町の特色ある教育というところを目指してほしい。新しい教育の場をつくるというところを考えますと、河北町のスポーツをする施設があまり整ってないと思うので、せっかく新たに作るのであれば、小学校、中学校、高校、あと社会人と、いろんなスポーツをする人のレベルを見られる、そういう環境を整えれば、基準が上がっていくんじゃないかなと。河北町はそういった特色も持っていながら、地域とのつながりも持ちつつ、運動・学力・地域コミュニケーションがそろった河北町モデルのようなものを作ってもらえればと思います。

森谷町長

庄司委員がおっしゃったように学習活動だけでなく、スポーツと文化活動と幅広い教育環境を考えて、ハード面の環境、もう一つは指導体制っていうか、本日の次のテーマにも関わってくると思いますが、指導者とか地域でどうするか。学校の先生だけじゃないわけですけど、設備の面と指導体制的なところのソフト面

の二つがあつて、生涯学習も含めて、学校サイドと生涯学習ガイドと地域と一緒に
になってつくり上げていくということ。あと、設備面から見ると、新しい学びの
場をどう整備するか。このコンパクトな町の中に、6 小学校あるわけですが、
この六つの小学校も大切な町の財産ですので、やはりどこにつくるにしても、既
存施設もうまく活用していく、そういったところも基本構想の部分になってくる
と思うのですが、トータルで考えていかなければと思います。

児玉委員

河北モデルってすごくいいなと思います。2 ページ (2) のところを考えていた
のですが、この (2) は、指導体制の理由づけにしては弱いのかななんて思っ
て見ていたところでした。かほくらしさはコンパクトな中でたくさんの学校があっ
てその中で個性を生かせる選べる学校システムにというふうにはいかないものか
と思っていたので、なぜ 1 校にまとまったのかと思っていたんです。でも人口減
とかいろんなことを考えて、なおかつこれから施設面だっている方法がある
ということであれば、やはりその中で、一人一人の個性を生かすことを考え、例
えば今 I C T でも何でもやはり一人一人が自分の好きな進路に進めるとかそう
いう基礎を築ける時だろうなあとと思って、そういうのができる町じゃないかなと。
それから、皆様がおっしゃった、幼小中高とも社会ともつなぐような、町全体で
教育に関わっていく、そういうことも、このコンパクトな町だとできるのか、な
るほどこれが河北町モデルかと思いながら、だから、それがもし学校を選べない
とすれば、個性が生きるような設備づくりだったり、人的配置だったり、そうい
うことを目指していく、その目指すところを話合っていければいいのかなと思
います。それに対する方法をご検討いただくことにして。

森谷町長

内容については、今日結論を出すということではなく、答申のポイントでい
うと、規模としては 1 校が最適だと。学びの環境としては、3 ページにあるような
内容を実現していくんだという前提で 1 校にするということ。ただ、数合わせの
統合ではないということをきちんと説明し、納得感のある方向づけをして、その
上で具体的に、1 校にするんだったらどういう学校にしていくなだと。それが進
め方でいうと、4 月以降のできるだけ早い時期に、河北らしい学校づくりに向け

て、具体的に着手していくかという進め方になって行くかなと思います。そういう意味で今日まで、入り口のところをどうするかっていうことも含めて、今後の進め方を教育委員会で整理していくということで。

全体的な動きでいうと、答申の内容と進め方について、本日の教育委員会会議と総合教育会議で整理したうえで、1月には1校に統合することでもいいのかどうか検討を進めて、2月には、1校に統合する方針について、答申どおりでいいとなった場合、町民説明なりパブコメをして、最終的にそこでまたいろいろ議論があるだろうから、そういった意見も聞いた上で最終的に、パブコメの結果を踏まえて、新年度できるだけ早い時期に基本方針というものを最終的に確定して、意見を聞いた上ですね。そして、今日の議論の中でもいろいろ出てますし、答申の中でも町に対する要請事項というか、そういったことも含めて、基本構想に着手していくと。恐らくこの基本構想、想定では、他の市町村の中でも、再編統合をしているところは結構あると思うんだけど、近くではどこですか。

板坂教育長

西川町、朝日町、村山市、遊佐町、尾花沢市、大石田町などになります。

森谷町長

最終的には、整備計画になるんでしょうけど、実際に新しい学校を作るとなれば。整備計画の前段として基本構想を考えていると。答申をもらって1校にするということの検討をして、大方の理解が得られたときに基本構想となるわけですが、ほかの市町村では基本構想を作る段階でどれぐらいかかっていますか。

秋場課長

2年3年です。

森谷町長

基本構想で大体2・3年。基本設計、設計、発注、整備、もう具体的な建設の手順に入ると。建設で2・3年位かかるよね。

秋場課長

建設で2年ないし3年。

森谷町長

基本設計から発注までは？

秋場課長

2 年ないし 3 年。

森谷町長

早くて 6 年、丁寧に行って最大 9 年位かかる幅だと。だから来年から基本構想にかかるとして、来年 2024 年、早くて 2030 年、もっとかかって、2033 年それくらい先になると。

秋場課長

できるだけ早くという方針からすれば、やはり 6 年かと。

森谷町長

6 年位でできればというのが、この答申に当たっての教育委員会の検討でもあるわけですね。ただ、ほかの例なども見て少し余裕をみていくと 6 年では済まない可能性もあると。今後の進め方ですけども、まずはその 1 番下を書いてありますけども、基本方針決定後、1 校に統合していくんだっていう基本的な方向付け、そして、その上で、来年度から時期や場所等の基本構想の策定に取り組んでいく。この進め方については何かご意見ありませんか。当然ここには書いてないけど、これから新年度にかけて学校の保護者とか P T A の総会とか、要請があればなるのか分からないけども、そういったところでも説明が必要になってきますよね。

秋場課長

要請というよりも積極的にこちらから行きたいなと考えているところです。

森谷町長

オールかほくで言うと町民説明会とかパブコメ、これが普通の手順はもちろん、各学校等での説明も丁寧に対応していくと。

秋場課長

小学校よりもこども園や幼稚園の保護者向けになります。

森谷町長

小学校だけでなく、こども園とか幼稚園の保護者のほうにも説明していくと。

森谷町長

庄司さんのほうから、今後の進め方で何か意見ありませんか。

庄司委員

やはりこれからを見据えた中で協議していく中では、できるだけ早く基本構想を練っていただいて、それを問いかねられるというような形にしていってもらったほうが、多分保護者のほうとしてはそれが1番聞きたいのかなと思います。

森谷町長

1校にすること賛成反対するよりも、むしろどういう学校にしていくなのだと。そういう意味からいうと早く基本的な方向を出してその上で基本構想をできるだけ早く提示して、ある意味でいうとさっき言った話になりましたけども、この答申にも入ってますけども、9年10年かけるんじゃないで、できるだけ6年前後で早めに作っていける、そのための基本構想のところを早く提示して、もっと建設的なところでのいろんな意見を取り入れて、そこに時間をかけていったほうがいいんじゃないかと。何校にするかってことに議論を尽くすよりも、この答申を踏まえて、1校にする上でどうしていったらいいかっていうところを早く提示して、いろんな意見を取り入れて、さっき言った、河北モデルをつくっていくぐらいの気構えで、全体で議論していきましょうよと。そういう感じですね。

庄司委員

今1校にするっていうことに対して町民の方が余り意見がない。この基本構想を出したことによって、河北町の人がいよいよ興味を持って、これはどうなんだっていう意見が多くなるのかなと思います。

森谷町長

やはりみんながいい学校になるんだっていう学校にしていけないといけません。一つにするか二つにするかの問題よりも、どういう学校をつくっていくかっていう。槇さんいかがですか。

槇委員

11ページの資料を見ると、クラスが成り立たないという状態が目に見えているので、早め早めにしていかないと。何年も先まで待ってられないなど、この数字を見ると危機が迫ってるなと感じます。

森谷町長

2校から1校に段階的に統合していくって意味じゃなくて、1校作るのにもしか

したら8年9年ってかかるとも限らないということを考えた場合に、今の6校の中でクラスが成り立たないような学校をどうするんだっていう議論をしていかなければということですね。

槇委員

1校がちゃんとできるまでの間に、既存の学校の中でこの学年はここに集約するとか、そんな感じでいかないと授業ができないのではないかと。

森谷町長

小規模校の中でのいろんな取組を実験的な例だけど、私が聞いた中でですが、もう今ICTじゃないですか。だから、教室で例えば3人で勉強して、大きなスクリーンがあって、東京の生徒たちの教室があるんですよ。空間的には少人数なんだけど、いろんな生徒の考え方をつないで、そして授業を6人、3人の議論だけでなく、東京都の小学生たちが、私たちは今こんなこと話し合ってますが、どうですかみたいな感じで、もう今はこんな授業でもやれるんですっていうのを見たのですが、今身近で、少人数学級をカバーする、複式学級だけでなく、こういう教育も、統合前の段階でやってますよという手法はありますか。

板坂教育長

谷地西部小と北谷地小で交流学习をやっています。最近では、西里小と谷地西部小も。今町長が言われたようなタブレットを使つての他校との交流ですね。それを使えば極端に言えば小規模でもやってはいけます。ただ、それも一長一短があって、実際会うのとリモートではやはり違うんですよ。画面越しではなく、直接折り合いをつけながら人間性を培っていくというのがやはり一番大事なので。

森谷町長

庄司さんは、できるだけ早く1校にする方向性は早めに結論を出して、町民の皆さんの声を聞いて、確定して、その確定した考え方に基づいて具体的な学校の構想づくりを早く進めて、そこにいろんな意見をより時間をかけて、入り口のところで時間かけるよりもという意味ですよ。あと槇さんは、そこはまた別にいずれにしても5年6年、7年とかかるのであれば、それまでの間どういう教育をしていくのかという視点も、もちろん考えていかないと。今、谷地西部小学

校をキーとして、北谷地小とか、交流学習などをやってるけれども今後、西里・溝延も含めてどうしていくのかということも含めて考えていかなければいけないということで。木嶋さんはいかがですか。

木嶋委員

私はもう、一貫して早く進めた方がいいと。丁寧も大切だと思うんですけど、時間かけていい問題と、やはりある程度進めなくてはいけない問題があると思うので、できるだけ早く進めていくのが良いと個人的には思います。

森谷町長

庄司さんの考え方と同じで、できるだけ早く具体的な学校づくりをということですね。

木嶋委員

それでもこれから6年かかるというと2030年になるわけですよね。急いでもそのくらいになる。やはりいろんな事情がありますので。

森谷町長

児玉さんはいかがですか。

児玉委員

この説明会というのは、要はこの答申についての説明ということなんですか。

森谷町長

いや、この答申に沿ってやはり教育長、教育委員会としても、この答申に書いてあることを踏まえて、1校にすることについて基本的にはどうですかと。そのためにどんな意見がありますかっていうことです。

児玉委員

答申についての説明ではなくということですね。例えば私たちがお話ししたような中身っていうか、一つはどこまでを説明するんだろうなっていうことが一点と、先ほど言ったように、なぜ1校でないのって思う人がいるとすれば、説明された人が引かかるようなところはうまく説明できるような改善が必要かと思います。その次にパブリックコメントでは、一体何に対してもらうのかということ、どのようにもっていくといいのかなと思います。

森谷町長

そういうことからいうと、児玉さんがおっしゃったように、町議に説明したり、パブコメに諮る。答申を諮るわけじゃないから、答申を受けた、答申を踏まえた教育委員会としての基本方針をについて、まず案という形で、その案を次回示して、最低限入ってくるのは1校だよってということと、あと、こういうふう to 今後進めていくんだよと、これぐらいの手順で進めていきたいということまで盛り込むか、まず1校にするかどうかというところを聞いているので、場所は基本構想の段階になると思いますが。そういった場所とか、具体的にどういった学校にしていくなのか、さっき庄司さんがおっしゃったように、新たに整備するものと、既存のものを活用していくんだらうか、やはりそういったものは、基本構想の中で整理して、また、基本構想に対する皆さんの御意見は、基本構想を作ったらその段階でまた皆さんに聞きますよと。何をパブコメで意見を聞くのかというこ to とを、次回提示していくと。

児玉委員

だとすると、教育委員会の日程の進め方なんですが、2月の町民説明会が教育委員会のある程度まとまった基本方針を出そうとするならば、2月の下旬にまた案を教育委員会でお話しするっていうのはどういう意味になりますか。

板坂教育長

そうですね。2月下旬じゃなくて、1月の中旬あるいは2月のこの説明会の前にもう1回ですね。

児玉委員

そうですね。でなければその説明会の内容を受けてまたまた相談するのかっていう意味になりますよね。

森谷町長

令和6年の1月下旬と書いてあるけど、教育委員会1回で決められないかもしれないので、事務局で基本方針案を作って、案を皆さんで議論していただいて、基本方針に盛り込むことを1月下旬までに精査すると。今日の話だと、2回くらいを設定が必要かなと。この表からいうと、今日の説明会を受けて、年明けから検討を進めて、2月以降のスケジュールに入っていけるように進めていくという

ことでいいですね。基本方針の案を作っていくところが一番大事なところになってくると思うので。現在1月15日号で答申については町民の方にお知らせする準備をしていますが、そういうことからいうと、2月中旬の町民説明会あたりに向けて、基本方針の案を、また広報に載せるっていうことも出てくるかもしれないですね。そこでパブコメをくださいとか。ということではちょっと時間もちょっとオーバーしてきましたけども、協議事項の1についてはよろしいでしょうか。はいありがとうございます。

では、協議事項2に移ります。

高橋補佐

それでは私のほうからは協議事項2について説明申し上げます。

まず、資料1、資料3のほうから説明したいと思います。まず資料1につきまして、今回河北町小中学校における休日の部活動の地域移行に至った基となる「山形県における部活動改革のガイドライン」についてです。目的は生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築と教員の働き方改革の推進の両立ということで、中学校の休日の部活動を段階的に地域のクラブ活動に移行していくと。背景としては少子化が進行している、生徒数が減少しているということで、部活動の持続可能な運営が困難であることと、あとは競技経験のない教員が指導せざるを得なかったり、休日も含めた部活動の指導が求められたりと教員にとって大きな業務負担になっているという背景がございます。項目としては5項目ございまして、まずⅠになります。一つ目が山形県における部活動改革に係る基本的な考え方で、まず、部活動の位置づけは任意加入が前提で、自発的な活動であるということ。二つ目は、部活動も平日のみとして休日は原則行わないという考え方。三つ目は、休日の活動は活動を希望する生徒の自主的な活動であり、活動を希望する生徒は地域のクラブ等に所属するなどして、休日は活動するということです。Ⅱは学校側の取組になります。一つ目は学習指導要領の趣旨を踏まえて、部活動の任意加入制を推進する。二つ目は学校規模に合った部活動数を精選する。三つ目は部活動に2人以上を配置して交代で指導に当たる複数校顧問の配置。四つ目は部員不足や指導者不足、あとそれ以外の場合でも学校で計画的に著しく減少が見込めるという場合に合同部活動を複数校で行うという取組になります。Ⅲに

つきましては、休日の新たな地域クラブ活動の環境整備として、受け皿となる運営主体等の決定ということでございまして、まず一つ目は、新たな地域クラブ活動への移行に向けた環境整備、市町村における部活動改革検討組織の設置ということで、市町村での改革に関する方向性や考え方、あと中学校とそういった情報を共有する、受入れ先状況との共有、あとは課題についての対応策の検討ということで、改革検討組織を設置するということです。二つ目が、地域移行を円滑に進めるために、移行団体、学校、教育委員会の間をいろいろと調整をするコーディネーターを設置する。三つ目は、そういったことを踏まえた連携、市町村、学校、運営協力団体の連携です。2番目は、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として可能な限り早期の実現を目指すという時期の説明でございます。Ⅳにつきましては新たな受け皿となる地域クラブ等活動についてということで、基本的にまず一つ目は、学校管理下外の活動になるということ、休日につきましては、地域クラブ活動は法律上、社会教育活動ということであり、ただ、中学生が参加している活動になるので、部活動方針にのっとって活動するというようなことになります。二つ目は新たに受け皿となった地域クラブの整備への支援、運営費などにつきまして、市町村は新たに受け皿となった地域クラブの支援、最終的にその受け皿となる地域クラブは、規約等を整えた形で組織体制を整備するということになります。三つ目の指導者につきましては、県及び市町村は、公認指導者資格等の取得の奨励、指導者対象の研修会等の開催、県につきましては、指導者の人材バンクの改修・登録者増を促進、市町村におきましては、土日、休日でも先生の中で、実際クラブの指導者をやりたいという方に関して一定条件を満たした場合は希望する教師等への兼職兼業を許可することになります。四つ目、五つ目につきましては、1番重要なところかと思いますが、可能な限り低廉な会費を設定して、負担を軽減する。あとは責任問題で、保険に必ず加入することです。Ⅴは、大会等のあり方になります。こちらは、運動部は中体連、文化の場合は文化の芸術団体になりますが、大会等の参加機会の確保や、調整ということが出てきます。こちらが山形県における部活動改革のガイドラインの概要に沿った形でございます。このガイドラインを示しているのはスポーツ部門だけでございまして、まだ文化団体のほうで示されておりませんので、こちらのス

スポーツの方だけを出させていただきました。文化に沿った形で適宜当てはめて考えていただきたいと思います。

資料2につきましては、河北町に当てはめた場合を図示化したものです。先ほど言った役割で教育委員会、中学校、運営協力団体の連携があつて、真ん中でコーディネーターが調整する。具体的な対策につきましては、河北町中学校における休日の部活動の地域移行に関する検討協議会的なものが設定され、町における地域移行の具現化を図っていくことが、河北町における部活動改革に係る基本的な考え方となります。最後、もし市町をまたぐ場合には、県が広域的な協議の場の設定を設けるというふうなことになり、最終的に受け皿となる運営主体等の決定、運営協力団体が主体、新たな団体の設立などに至ります。資料2の2ページ3ページなんですけれども、これは想定される移行のパターン例でございまして、左側単独自治体内での移行した場合、右側が広域的な移行の1例、複数にするパターンでございます。

板坂教育長

はい。そこまででいいです。ちょっと時間が来てますので、ここにいらっしゃる庄司さんも、スポーツ団体の中に参加していただきました。いわゆる簡単に言うと、今まで学校でやっていた部活動、これは平日は部活、そして休日の土日どちらかは地域のクラブにお願いしますっていうものになります。

森谷町長

夏休みの扱いはどうなりますか。

板坂教育長

夏休みも平日は学校での部活動の活動、土日はクラブ活動になります。はっきり言うとクラブがたくさんある地域ではスムーズに移行できますが、そうでないところは課題が山積なんです。町内の文化団体とスポーツ団体に説明したところですが、課題がたくさん出されました。文化団体は活動日はできるが、いわゆる指導者の高齢化もあり、土日の活動は難しいというご意見や、小学校中学生を相手に文化に触れられる機会、設ける、それぐらいぐらいだったらできるかなというご意見もありました。

森谷町長

ちなみに河北中の文化部は何がありますか。

吉田主幹

まず、運動部の説明会のときに出たのか。ガイドラインのとらえ方が、学校の部活動を休日に当てはめるのか、クラブ自体で活動するのかというようなスタンスについて確認がありました。結局この地域移行では中学校も参加するから、基本中学校のガイドラインを守りながら進めてくださいねと。だとすると、地域だったら、もうやりたい人たちが集まってくるわけだから、活動の時間とか量とか、その辺で整合性とれなくなるのではないかと。その子供に合ったスポーツ環境を整えられないんじゃないかと、まず一つ大きな課題がありました。実際運用していく中で規約を整えないといけない。学校管理下外の活動のため保険に入らないといけない。学校管理下内だったらスポーツ振興センターの保険で賄えるんですけども、一般のスポーツ保険はそれよりも低い保障になってしまうことも話題になりました。

森谷町長

そこは文科省で環境整備をする考えを示すのではなく、地域に丸投げ？

吉田主幹

やはり学校管理下外となるので。あと、会場、場所とか使用料、体育施設使うのであれば、減免をどのようにしていくのか。現在町で進めてはいますが、その辺をもっと明確にしていけないといけない。あと活動の補助です。道具が必要なスポーツもあるわけです。そういったところにどういう補助をしていくのか、あとは低廉な参加費ってありますけれども、今はクラブに所属するための経費を基本受益者負担でしていただくんですけども、それについての補助とか、あと指導者謝金についての補助とか、その謝金の与え方、どのようにシステム化していくのかというようなところが一つ大きなところかなと思います。あと、クラブを立ち上げるまでにコーディネートをする方が必要になります。それぞれのクラブで指導する方なんですけども、その人選について、選定の難しさっていうところも、非常に大きな話題だったと思います。あと文化部のほうは、今教育長がおっしゃったように、やはり各団体の文化活動もっと知ってもらわないといけないと。

なかなかそういう活動にはつながらないということで、今やってる小学校の協働活動などでも広く、茶道、華道、大黒舞など、どんどん取り入れながら、その活動のよさを知ってもらい、中学校に入っても続けてもらいたい捉えだったように思います。あと中学校の部活動については、文化部は吹奏楽部、音楽部、コンピューター部、美術部の四つです。でも実際音楽部は今1名だけです。人数的なところを言えば吹奏楽部と美術部が多いです。あとその次にコンピューターの部は20人ぐらい、吹奏楽部はもうちょっと多くて、美術部も大体30人ぐらいの規模で活動しています。現状このような状況です。

森谷町長

資料1の県のガイドラインがある中で、既に河北町として着手してるのはどこまでですか。

高橋補佐

市町村における部活動改革検討組織の設置については、今年の1月31日から設置されています。

森谷町長

現在はまずそこだけですか。そのほかは吉田主幹からあったような説明会を進めているところですか。

高橋補佐

これまでの経緯とこれからのスケジュールは別紙にお示ししたとおりです。

森谷町長

11月14日の地域移行の受け皿となる団体の聞き取りっていうのは、今進めている最中ですか？

高橋補佐

聞き取りは終わっています。

森谷町長

コーディネーターがなかなかないんだっていう話でしたけども、予算要求は？

高橋補佐

コーディネーター経費は1人分要求してます。

森谷町長

まだ人選はこれからで、来年度以降コーディネーターを決めていきたいと。そして今の教育委員会の体制とコーディネーターを含めた形で動かしていきたいということですね。令和8年の4月までに、終えないといけないと。今の話だと問題山積で大変だということのようです。教育長のこれからの考え方もあると思いますので、教育長から進めていただいて、今日中に皆さんから聞いておきたいところはないですか。

板坂教育長

庄司さんは先日会議に参加していただきましたが、いかがでしたか？

庄司委員

やはり一番は指導者問題かなと私は思います。受け皿がないと子ども達が活動できる場所がないので。何団体かはあるんですけども、だんだん指導者不足で活動がままならない状況となっていますので、そこはやはり町として、リードしてもらって色々な選択肢ができるよう受け皿を作っていただければなど。

森谷町長

できればオールかほくでの地域移行となるのを期待していますが、現実的な問題として、コーディネーターとか、あるいは指導者確保とかを考えると、広域的に考えていかなければならないという議論はありますか？

板坂教育長

あります。1市4町の、いわゆる担当者あるいは教育長会で会議を進めています。広域となると、会場までの交通手段や謝礼や会場の使用料などの問題があります。

児玉委員

部活動と地域移行の兼ね合いを考えると、試合などが出てきたとき、例えば部活動顧問の教員に兼職兼業を許可するということになって、その人たちが部活延長のようになる動きはありますか。

板坂教育長

当然その先生が、土日も指導したいですよとなれば許可することができます。

吉田主幹

しかし、時間外の45時間が基準となります。まして時間外が80時間近くの先

生はより難しいと思います。トータルの時間の把握は必ず必要となります。

森谷町長

労働基準法と時間外のところは切り離せないと。

板坂教育長

ガイドラインにもありますが、先生方の働き方改革が大きな柱となっています。

吉田主幹

もし参加するのであれば無償ボランティアという形で入ることもあります。謝礼はなしで。学校の先生方のアンケート結果は、8割は関わらないとの結果でした。

楨委員

土日、県外まで行ったり前はしましたけど、今はもうスポーツクラブ指導者が連れていくことになっていると。

吉田主幹

それは令和8年度に移行したところからのイメージです。土日の大会への引率は、おそらくそのクラブで参加するっていうふうな形です。中体連は学校の管理下の活動なので、そこには土日でも先生は引率していきます。大会参加の在り方も今後変わっていくだろうと思います。

森谷町長

卓球は少し指導体制が出来てますか？

吉田主幹

卓球は協会主催で土曜休日に練習をやってます。小学生も参加対象になっています。平日は基本外部指導者が入るのですが、休日指導している方とほぼ一緒です。

森谷町長

卓球は土日の受け皿の指導体制が、平日の部活の指導もカバーしている状況ですね。

吉田主幹

そうですね、指導者が同じなので。ただ他のスポーツ団体がどのくらい進んでいるのが把握出来ていないので、卓球が先行しているというわけではありません

ん。

高橋補佐

例えばバスケのほうはアンケートでもあったのですが、ルールもそうですし、高さとか規格が合わないので、すぐ移行出来ないという回答をもらってると思いました。

板坂教育長

では時間ですので、長時間にわたる熱心な協議ありがとうございました。小学校のあり方については、その答申を受けて、皆様の知恵をいろいろお借りして、基本方針をまとめていきたいなと思ってますので、今後ともよろしく願います。

森谷町長

どうもありがとうございました。

4 その他

秋場課長 河北中のスポットクーラーについて

5 閉会

古澤係長

これをもちまして、令和5年度 第1回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後5時03分